

# いもこじ

第51号  
【年3回発行】  
日置地区  
社会教育振興会  
〈事務局〉  
鹿児島教育事務所

## 3年ぶりの対面開催!

日置地区社会教育振興会 総会

令和4年5月23日(月)、いちきアクアホールにて会長(中屋謙治いちき串木野市長)をはじめ、永山由高日置市長、両市の議会議員、社会教育関係団体長や学校関係の会員が出席して、総会が3年ぶりに対面で開催されました。

### 人づくりつながりづくり 地域づくり

総会では中屋会長が、日置地区の社会教育振興・充実のために、地域の伝統・風土を生かしてきた強みを發揮し、人づくり、つながりづくり、そして、地域づくりに大きく貢献していきたいとあいさつされました。

その後、会員を代表して、いちき串木野市PTA連絡協議会長の上新剛氏に会長が委嘱状を交付しました。協議では令和3年度事業報告や決算、令和4年度事業計画や予算案、新役員等が承認されました。

地区の社会教育、生涯学習を充実発展させ、ふるさとづくり、



総会の様子

人づくりを進めていくことを確認しました。



月	日	曜	令和4年度社会教育関係行事
6	10	金	鹿児島地区社会教育委員及び社会教育担当者等研修会
	21	火	日置地区地域女性団体連絡協議会研修会<いちき串木野市>
7	2	土	日置地区PTA正副会長等研修会<いちき串木野市>(兼 鹿児島地区人権教育ブロック別指導者研修会)
	6	水	鹿児島地域文化財保護審議会委員及び文化財行政担当者等研修会(鹿児島市)
8	30	火	日置地区ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び組織・教育・食料・環境学習大会<いちき串木野市>
10	24	月	日置地区公民館経営研究会<いちき串木野市>
11	16	水	日置地区文化財担当者等研修会<未定>
1	28	土	県PTA活動研究委嘱公開<日置市>
2	5	日	日置地区生涯学習推進大会<いちき串木野市>

テーマ  
青少年健全育成及び生涯学習社会実現を目指す社会教育関係者の役割はどうあればよいか

### 令和4年度新役員 (敬称略)

会長	中屋 謙治 (いちき串木野市長)
副会長	谷川 敬 (鹿児島教育事務所長)
副会長	井之上 洋一 (地区社会教育委員 連絡協議会長)
監事	元山 寿哉 (日置市PTA連絡協議会長)
監事	相良 一洋 (いちき串木野市教育長)
監事	町田 実徳 (照島小学校長)

### 地域の教育力を生かそう!

鹿児島地区子ども会育成連絡協議会 総会

5月6日(金)、鹿児島地域振興局で標記の総会が開催されました。

総会では令和3年度事業報告や決算、令和4年度事業計画案、予算案、新役員等の全ての議案が可決されました。

子ども会総会の様子

### 令和4年度子ども会役員 (敬称略)

会長	松尾 四男 (日置市)
副会長	松下 良照 (いちき串木野市)
副会長	長濱 義人 (三島村)
監事	藤崎 秀雄 (いちき串木野市)
監事	下野 照男 (日置市)

月	日	主な行事
12	3	地区子ども会大会、指導者・育成者研修会(いちき串木野市)
8	23-25	ジュニア・リーダークラブ及び高校生クラブ交流大会(鹿児島市)

### 日和下駄

小さいときから本に親しむ  
日置市中央図書館  
館長 橋口 忠生

図書館は、幼児から高齢者までさまざまな年代層の皆さんが利用されます。その中で、赤ちゃんを抱いたり、子どもの手をひいたりして来館される若いお父さんやお母さんを見かけます。ご自分が読書好きなのか、子どもに読ませたいのかは分かりませんが、親に連れられて図書館に通う子どもは、間違いなく本に親しむ習慣が身に付くと思います。

幼いときからの読書体験は、多くの「言葉」を覚え、それを使った豊かな「表現力」が育つと言われます。また、お話に登場する人物と同じ気持ちになって読むことで、「共感力」や「想像力」が育ちます。

こうして、相手の気持ちに寄り添った言動が身に付き、コミュニケーション能力が高まり、社会生活の中でよりよい人間関係を築いていける大人へと成長していくのです。当図書館では、乳幼児を対象にしたお話し会を定期的に開催しています。また、日置市は、乳幼児健診時に絵本を配布する「ブックスタート」を毎月実施し、小さい時から本に親しむ機会をつくっています。

子どもの読書習慣は、赤ちゃんを抱いて絵本を読み聞かせるお父さん、お母さんによって育てられます。



# 「青松塾」

いちき串木野市

からだで！こころで！  
学ぼう、感じよう♪

本市では、毎週土曜日(第2・第3土曜日を除く)の午後2時から午後4時まで市中央公民館を拠点に**いちき串木野市「青松塾」**を開催しています。  
**鹿児島大学教育学部との連携！**

「青松塾」は週末支援事業の一つとして旧市来町が平成16年から行っており、平成19年には、鹿児島地域塾の認証も受け平成21年3月に鹿児島大学教育学部と相互協力の協定を結び、19年目を迎えました。

## 明日を担う子どもたちの健全育成を！

本塾は鹿児島大学と連携し、自学自習により自ら学ぶ習慣を身につけ、体験活動でふるさとの自然や歴史に触れ、豊かな心を育てることを目指しています。

内容は、**学習活動(10回)**と**体験活動(8回)**です。この活動のサポート役として、教員を目指している鹿児島大学教育学部の大学生が講師として毎回参加しています。なお、「青松塾」に講師として参加した大学生が

月	主な体験活動
6	レクリエーション
7	レザークラフト
8	創作活動
10	消防署見学
11	冠岳西岳登山体験
12	デコパージュ
1	大学生プラン
2	お菓子作り

今年度の活動予定(感染症・天候等で変更の場合あり)

6月4日の2回目の青松塾は、塾生と大学生講師の距離をさらに近くするために体験活動として「レクリエーション」に取り組みました。ジャ

今年度も、新型コロナウイルス感染症の関係で参加人数が少なかつたものの、小学3年生〜6年生12名、中学生1名、計13名の塾生と大学生講師12名の登録がありました。  
早速、5月28日に入塾式を行い、塾生と大学生講師が初めて対面し、そのまま学習活動に取り組みました。お互い会ったばかりなので、とても緊張していましたが、大学生は教員を目指していることもあり、積極的に塾生に接してもらいました。塾生は、大学生講師との会話をきっかけに、勉強で分からないところなどを質問し、教えてもらっていました。



入塾式の様子

コロナ禍でも、様々な学校との異年齢での活動を通して、たくましく成長した姿を修了式では見せてくれることでしょう。

休憩時間は大学生講師と遊んだり、お話をしたり、とても楽しんでいます。  
最後はグループごとに写真撮影！  
**コロナにも負けず、力を合わせて！**  
今後も学習活動をはじめ、レザークラフト、冠岳西岳登山などの体験活動と消防見学の職業体験など(上記参照)、感染症対策を講じ、できる範囲で活動を計画していきます。



学習活動の様子



新聞紙で変身！

本村では、生涯学習の推進を図るため7つの学校に社会教育学級を開設しています。教頭先生を学級主事として、地域住民を対象に、年間10回程度の講座を計画しています。この2年間は感染拡大防止のために、半分の6回程度になりました。  
これまでは、講師は地域の住民や教職員、時には島を訪れた大学の先生等多くの方々にお願いしてききましたが、外部から招へいできなくなっています。そこで、島内の方々を講師として招へいし、島の歴史を学ぶ場を設定するなどの工夫改善を図りました。

また、全島に配置されているALITを講師として、楽しみながら英会話を学ぶ学習もあります。  
人権学習では人権問題を正しく理解し、人権尊重の重要性について正しい認識を持ってもらうために、必ず年一回は開催しています。  
今後は、少しずつ通常のペースに戻して、学級生の希望や必要とされる内容を考え、より充実した講座となるよう工夫改善を図っていきます。



社会教育学級(口之島)「食について考える」



社会教育学級(平島)「水難救助訓練」

## 学びの風は七つの島から

充実した時間を過ごした

「みんなのYUMETAIMEタイムトライアル2022」

伊集院総合運動公園陸上競技場において、3月21日(月・祝)に日置市初のランニングイベント「みんなのYUMETAIMEタイムトライアル2022」を開催し、日置市内外から約200名のランナーが参加しました。

大会名の「Y.U.M.E」に「U.M.E.(梅)」の文字が入っているとおり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となった「いじゅういん梅マラソンジョギング大会」の代替大会として企画、開催しました。

3部構成による大会

午前中は、チームでタスキをつなぎ2時間で走った距離を競う鹿児島県リレーマラソン発の「絆たまRUN」。未就学児

が人生初のランニング大会として421・95mを走る「キッズRUN」。

午後は参加者自身が設定した目標タイムクリアを目指す鹿屋体育大学発の



みんなのタイムトライアルの様子

「みんなのタイムトライアル」と、ランナーが一日中楽しめる県内初の産学官(民間会社、鹿屋体育大学、日置市)連携のランニングイベントとなりました。

日置市教育委員会社会教育課

絆たまRUNには中学生から一般まで11チームが参加し、仲間との絆を深めながらタスキを繋ぎました。本気で記録を狙うチーム、和気あいあいと思いつくりのチームなど思い思いのペースで2時間を楽しみ大いに盛り上がりました。

キッズRUNには未就学児の15名のキッズが参加し、家族の付き添いをお願いしながら、一生懸命にゴールを目指しました。

みんなのタイムトライアルではペースメーカーとして県下一周駅伝日置チームの選手が参加し、出場者の目標達成に向けてサポートをしました。ほとんどの出場者が目標タイムをクリアし、走り終わった後はお互いに健闘を称え合うなど、笑顔で充実した時間を過ごすことができました。

参加者アンケートには、「子供とのおいしい思い出になりました。」「きつかったけれど、今持てる全力を出し切れてよかったです。」など、喜びのメッセージが寄せられました。

いにしへの道を聞かなくても唱えてもわが行いにせずばかひなし

「日新公いろは歌」は、島津家中興の祖とされた「日新公」こと島津忠良が「いろは」順に詠んだ47首の和歌です。

郷土の伝統や風土を生かす！大会では、これをかるたにし、低学年(1・2年生)、中学年(3・4年生)、高学年(5・6年生)の部に分かれ、取った絵札の枚数を競います。16回目を数える今大会には、児童47人が参加しました。

第16回「日新公いろは歌」かるた取り大会

令和4年1月15日(土)、吹上町吹上砂丘荘

ボランティアの中学生6人が日新公いろは歌を読み上げると、参加した小学生は勢いよく畳の上になぶ絵札を払っていました。優勝トロフィーを獲得した児童は、「いろは歌かるたが大好きです。優勝できてよかったです。」と嬉しさを見せていました。

新型コロナウイルス感染症防止対策を行いましたが、日新公が生まれ育った吹上地域で、子供たちの郷土愛を高める大会となりました。



熱戦の様子

県「優良読書グループ」表彰

片泊かめんで文庫(三島村)

鹿児島県図書館協会及び鹿児島県読書推進運動協議会が表彰する「令和3年度優良読書グループ」に「片泊かめんで文庫」が選ばれました。

「片泊かめんで文庫」は、平成11年に発足して以来、親子や地域ぐるみでの読書活動に取り組んでいまい。具体的には、月1回の「本も友達二十分間運動」や担当となった会員による「おすすめの本の紹介」、地域の防災無線を利用した、月2回ほどの「夕読み・作文発表」(小学1・4年は本読み、5・6年生と中学生は作文発表)などの活動に取り組み、子供たちの読書意欲の向上、感性や創造力、考える力の育成に努めて来たことが高く評価されたものです。

これらの活動を21年間継続してきたことで、学校のみならず、家庭や地域全体の読書に対する意識の向上につながり、豊かな読書環境が醸成されてきました。



夕方の音読放送

この表彰を機に、今後も更に地域と一体となった読書活動が充実・継承され、読書好きで心豊かな子供たちが育っていくことと思います。

三島村教育委員会

求められるのは、地域住民の「主体的な意識」への転換

鹿児島地区社会教育委員及び社会教育担当者等研修会を6月10日(金)、日置市中央公民館で開催しました。感染防止対策を講じ、40人の参加がありました。

支援から連携・協働への活動

「地域・学校と連携した社会教育のあり方」について、県教育庁社会教育課社会教育係の慶田主任社会教育主事兼係長が講義をされました。

地域・連携を推進するためには、「誰かがするだろ」という意識を払拭し、地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換が求められていると指導されました。地域学校協働活動の具体的な取組として、前任地の霧島市におけるキャリア教育「ギリシマち」などの取組を紹介されました。



講師の慶田氏

開かれ、つながる社会教育へ

社会教育の取組を日置市の萩原社会教育課参事と、いちき串木野市の溝上社会教育課長補佐が発表しました。参加者からは、「他地域での取組を知ることができてよかった。自分も、これまで以上に地域貢献へ力を入れていきたい。」という感想がありました。

地域をつなぐ社会教育委員

分科会では、1班3〜4名の10班に分かれて「青少年の健全育成及び

文化財 新たに県指定!

令和4年4月26日付で「諏訪之瀬島ナベダオのツクシヤマザクラ群」が県文化財に新指定されました。

諏訪之瀬島は、ヤマザクラが咲く南限地です。台風の影響などで単幹の成長が妨げられ、複数の幹が株立ちし大木となっています。さらに新芽が黄緑色でヤマザクラより花が大きく、芳香がある等の特徴があります。ここではヤマザクラの変種ツクシヤマザクラと区別して重要なものです。(写真提供は県教育庁文化財課)



重要なものです。(写真提供は県教育庁文化財課)

参加者からは、「地域や立場の異なる方々の意見は参考になり、子どもや地域を見直すよい機会となった。」という感想があり、充実した研修会になりました。

継がれている「かごしま弁」を大切にしたい地域と学校との連携の在り方について意見が出されました。



研究協議の様子

一人一人を大切にするために

6月21日(火)大雨の中、いちきアクトホールで日置地区地域女性団体連絡協議会研修会を開催しました。両市から60人の参加がありました。

講師の高崎恵さん(男女共同参画アドバイザー・ワークショップデザイナー)は、一人一人を大切にするために、の演題に、ワークショップの手法を取り入れながら、多様性、同調圧力、「対話」の意味



講演する高崎恵さん

等、様々な切り口で、一人一人の「違い」を生かせる地域づくりについて分かりやすく講演されました。一人一人に考え方や感じ方、これまでの経験にも「違い」がある。その違いを大切にしながら、お互いの意見を言いやすい場を作っていきたいと思います。

日置地区 地域女性団体連絡協議会 研修会

ワークショップを通して実感することで、講演内容が説得力をもって伝わり、参加者はうなずきながら聞いていました。

講演後、参加者からは、「心に響いた。」「元気をもらった。」「良い研修で多くのことを学んだ。」など、今後の活動の意欲につながる感想が多く聞かれました。



ワークショップの様子

研修会での学びを、今後の地域女性連の活動に生かしていきましょう。

編集後記

本誌は第51号を迎え、新たに第100号を目指してスタートしました。創刊時の『芋洗い』の精神を地域活性化に活かせるよう創意工夫を凝らすとともに、時代の流れにも対応した情報発信をしていきます。今後もよろしくお願ひします。(事務局 田中)

不易と流行